

水素と軽油で動き二酸化炭素
排出を50%削減できる旅客船
「ハイドロびんご」
23日午後、松山市高浜町



水素燃料船 地球に優しく

■ 松山で児童ら向け見学会

水素燃料を動力とする世界初の旅客船「ハイドロびんご」の見学会が23日、松山市高浜町の松山観光港であり、小学生など66人が地球温暖化対策への理解を深めた。



水素で動く旅客船「ハイドロびんご」の解説を受ける参加者ら＝23日午後、松山市高浜町

C O₂半減 脱炭素化へ期待

読もう!



若い世代に水素社会の到来を
実感し、脱炭素化を考え
てもらうと、松山市SDG
s（国連の持続可能な開発目
標）推進協議会の「水素ス
テーション導入に向けた分
科会」が主催。市内の小
生や松山工業高校の生徒な
どが参加した。

「ハイドロびんご」は、全長19・4メートル、総重量19トンの小型旅客船（定員82人）で、造船などを手掛ける「ツネイシクラフト&ファシリティーズ」（広島県）が製造した。水素と軽油を一緒に燃やすエンジンを用い、水素は燃料のうち最大50%まで。二酸化炭素（CO₂）の排出量を従来の半分に減らすことができる。参加者らは、県内にまだ水素ステーションがないことなど課題の解説を受けたあと、実際に船に乗り込み、水素がどのようにエンジンで利用されるか熱心に聞いていた。参加した愛媛大附属小学校6年の富田篤人君（12）は「水素で動くのはすごい。多くの人が（脱炭素化の成果を）実感して水素動力の乗り物が広まる」と話した。

トヨタの水素を用いた燃料電池車「MIRAI」の見学もあった。（尾上芽吹）